

き 養老町地域女性協議会
きれいなホームで気持ちよく



▲階段からホームの隅まで丁寧に掃除する会員の皆さん

1月31日(日)、養老町地域女性協議会(水野八重子会長)の会員約30人が養老鉄道烏江駅のボランティア清掃を行いました。これは養老鉄道を守ろうと5年前から行われているもので、町内で唯一の無人駅である烏江駅を清掃しています。当日は、曇り空で肌寒い日でしたが、会員は窓掃除、掃き掃除など役割分担し約1時間ホームなどの清掃をしました。ガムはヘラを使ってはがし取り、窓もガラスを拭くだけでなく、窓枠まできれいにする念の入れようでした。水野会長は「この清掃を始めた頃は、鳩のフンやガムなどでホームは汚れていました。大垣養老高校の生徒なども定期的に掃除してくれるので、今ではとてもきれいです。気持ちよく利用してもらって、養老鉄道の活性化につながれば幸いです。」と話していました。

い 生活と環境を考える会学習会
いろんな取り組みで環境保護を

1月22日(金)、生活と環境を考える会(大橋美智代会長)の学習会が町中央公民館で会員ら約60人の参加を得て開かれました。今回の学習会では『ぎふエコ宣言-地球温暖化防止に関する10の取組み』の実践報告と、森和彦さんの綿くずを使った米づくりについての講演が行われました。

寝具の製造販売を営む森さんは、古い布団を引き取り処分していましたが、これを利用できないかと考え米づくりを始められました。農業経験のない森さんは試行錯誤を繰り返し、綿による米づくりを続けてきました。綿シートによる米づくりは、農薬や肥料を使わず行うので収量は多くありません。きっかけはゴミ問題でしたが、今では食の安全といったテーマになってきたという森さん。自分のつくったお米を「おいしい」と言って食べてもらえる喜びができたそうです。



▲収穫後の綿シートを手に取り説明する森さん

学習会では他にもアサガオの緑のカーテンの実践発表もあり、会員らは発表に熱心に耳を傾けていました。また、会が作っているEM廃油洗剤の愛称が「げんちゃんEM^{せっけん}」と決まりました。

や えのころ草の会作品展
さしい作風での気持ちほがらか



▲今年の干支の寅の字を用いた作品に感心する来場者

絵手紙サークル「えのころ草の会」の作品展が町民会館ロビーで開かれました。今回の作品展では、絵手紙で綴る1年間や、ひょうたん「夢」などの文字や絵をあしらったものなど、趣向を凝らした作品が多くありました。代表の佐々木康子さんは「絵手紙を始めて友達が増え、人とのつながりができたことがうれしいです。」と話されました。実際に「その絆に心からありがとう」や「いい出会いに感謝しよう」などと書かれた作品が多くあり、訪れた人の心をあたためる作品展でした。